

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

|      |  |
|------|--|
| 対象部局 | 神学研究科  |
| 大項目  | 6 教育内容・方法・成果 (研究科)   |
| 中項目  | 6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針   |
| 小項目  | 6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。  |
| 要素   | 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示<br>教育目標と学位授与方針との整合性<br>修得すべき学習成果の明示   |
| 小項目  | 6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。                                  |
| 要素   | 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示<br>科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示            |
| 小項目  | 6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。 |
| 要素   | 周知方法と有効性<br>社会への公表方法   |
| 小項目  | 6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。               |
| 要素   |  |

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」   | 左記目標の「指標」   | 進捗状況(達成度)評価 |      |      |      |      |
|---|---|-------------|------|------|------|------|
|   |   | 2009        | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 教育目標に基づいたディプロマ・ポリシーを策定(設定)する。  | →ディプロマ・ポリシーの明示・公開(2011年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。    | C           | B    | A    | A    | A    |
| 2. 学位授与基準、修了認定基準を明示する。  | →学位授与基準、修了認定基準の明示・公開(2012年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。 | C           | C    | B    | B    | A    |
| 3. ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを(設定)する。   | →カリキュラム・ポリシーの明示・公開(2013年度までにWEB等の広報媒体、履修指導への反映[心得に掲載])。   | C           | C    | B    | A    | A    |
| 4. 前期課程を修了し、伝道者(牧師、聖書科教師など)として働いている者が入学できるリカレント・プログラムを、博士課程後期課程において、ないし、外国の大学との協力により、設ける。 | →学位の新設(規程改正)。   | D           | D    | D    | C    | C    |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
|                   | →         |      |      |      |      |      |
|                   | →         |      |      |      |      |      |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

|            |          |  |                                     |
|------------|----------|--|-------------------------------------|
| <p>目標1</p> | <p>A</p> | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか<br/>ディプロマ・ポリシーは2010年度に策定し、2011年度以降、研究科生全員の履修指導に活用している。また、2011年度のカリキュラム・ポリシー策定を受けて、アドミッション・ポリシーを含めた3つのポリシーを併記し、WEBにて公開している。2012年度からは、学生に配付する『履修の手引』にも掲載し、周知している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か<br/>学生への直接的な効果については測ることが難しい。研究科教職員については、カリキュラムや指導方針を議論する際にディプロマ・ポリシーに立ち戻って検討する姿勢が表れている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か<br/>2015年度にカリキュラムを改正すべく議論が進んでいるが[カリキュラム研究委員会(研究科)を中心として]、カリキュラム・ポリシー、科目設定、履修モデル、学位取得までのモデルを含めた全体的な検証と見直しを行う。</p> <p>その他</p>   | <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> |
| <p>目標2</p> | <p>A</p> | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか<br/>ディプロマ・ポリシーの公開と併せて課程修了及び学位授与に係る「学位(修士・博士)論文」審査基準の公開に向けた明確化の作業を開始、研究科委員会の承認を得た(2012年11月)。2013年度の研究科内公開と試行を経て、2014年度からは正式に『履修の手引』に明記の上、「博士論文審査基準」「修士論文審査基準」として公開している。「修士論文審査基準」に関しては、2013年度において各教員がそれぞれの基準項目に照らして論文の審査にあたっており、それを口頭試問にも活かしている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か<br/>「修士論文審査基準」に照らしての論文審査とその妥当性について、FD研修会(研究科)において意見交換を行った(2014年6月)。計7項目の各々について、どのように評価を検討し総合評価を与えるかにおいて、教員間で認識の違いがみられた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か<br/>論文審査基準の適切な運用について、FD委員会(研究科)や部長室委員会にて継続的に検討を行う。</p> <p>その他</p>   | <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> |
| <p>目標3</p> | <p>A</p> | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか<br/>カリキュラム・ポリシーを策定し(2011年度)、ディプロマ・ポリシーおよびアドミッション・ポリシーと併せ、3つのポリシーをWEBで公開したほか、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、学生へ配付する『履修の手引』にも掲載し、履修指導(ガイダンス等)をとおして周知している(2012年度)。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か<br/>2013年度の大学評価において『…博士課程前期課程3項目、博士課程後期課程2項目の教育課程の編成・実施方針が示されているが、人材養成の目的や学位審査のプロセスに偏っている記述が見受けられる』との指摘を受けているが(『関西学院大学に対する大学評価(認証評価)結果』, p.18)、これを今後の課題と受け止めている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か<br/>毎年度の自己点検・評価作業において、研究科委員長の責任の下、自己評価委員会(研究科)がカリキュラム・ポリシーの適切性を検証しているが、上記の指摘を受けて、カリキュラム研究委員会(研究科)および部長室委員会にて具体的な対応を検討し(2015年度カリキュラム改正に際して)、研究科委員会に提案を行う。</p> <p>その他</p> | <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> |

|     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 目標4 | C | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか<br>専門職学位 (Doctor of Ministry) を念頭に置き、その指導に携わることが想定される教員1名が、米国の神学校において<br>コースワークを受講するなど(2013年度)、学位取得の準備を進めている。また、実際に伝道者としての働きをしている者の<br>研究科への受け入れ(社会人正規学生)、キリスト教界の課題を現場の立場から協議する「神学セミナー」、医療・福祉の現<br>場における人材育成を目指したプログラムに関する共同研究(神学部教員を中心に、人間福祉学部3名を含む計6名によ<br>る)など、社会人学生のニーズを探る取り組みを行っている。 | ☆ |
|     |   | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か<br>大学院への接続を意図して、まずは学士課程において医療・福祉の現場における人材育成を目指した「ディアコニア・プログ<br>ラム」を開くべく、科目群設置の準備を進めている(2015年度神学部カリキュラム改正予定)。  | ☆ |
|     |   | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か<br>学士課程において上記プログラムを安定稼働した上で、まずは当該プログラム修了者をどのように大学院で教育し、新たな<br>学位取得につなげるのかを検討する。   | ☆ |
|     |   | その他   | ☆ |
| 備考  |   |   | ☆ |